

登録コード:MH601200 開講年度:2026		授業科目区分	専攻専門科目 必修
科目名	薬理学【看理作20M以降】 Pharmacology		
担当教員	内藤 隆文 平井 啓太・間宮 敬子・下里 誠二		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	全専攻/2年 前期 火曜・4時限		
単位数、講義室	2単位	多目的講義室	遠隔授業科目
信大コンピテンシー	非該当		
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素	⇔	授業の達成目標
	MH20カリ・保健		
	保健・医療において生じている現象を分析し、健康問題を解決するために必要な科学的根拠に基づいた判断の進め方について理解することができる。	⇔	臨床の現場で使用される医薬品の基礎的知識を修得する。
	MH25カリ・保健・看護, MH23カリ・保健・看護		
	＜基礎的・専門的な知識と技能＞看護専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。	⇔	臨床の現場で使用される医薬品の基礎的知識を修得する。
	MH25カリ・保健・理学, MH25カリ・保健・作業, MH23カリ・保健・理学, MH23カリ・保健・作業		
	＜基礎的・専門的な知識と技能＞保健・医療専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。	⇔	臨床の現場で使用される医薬品の基礎的知識を修得する。
	MH25カリ・保健・看護, MH25カリ・保健・理学, MH25カリ・保健・作業, MH23カリ・保健・看護, MH23カリ・保健・理学, MH23カリ・保健・作業		
	＜科学的探求力＞変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。	⇔	臨床の現場で使用される医薬品の基礎的知識を修得する。
授業で学べる「テーマ」	健康長寿		
全学横断特別教育プログラム			
授業概要	本授業では、看護師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士として、臨床の現場で使用される薬の基礎的知識を修得するとともに、薬物療法に際しての薬の使い方や看護師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士の役割について理解を深めることを目的とします。本授業は、担当教員の臨床現場における薬剤師または医師としての実務経験を活かして講義を行います。 本授業は、1年次で学んだ基礎医学系科目（解剖学、生理学、生化学、病理学など）の知識を前提とし、2年次後期に展開される各専攻の専門科目の病態学・疾病治療学系の理解に非常に重要となります。さらに、3年次以降の疾患・領域別の演習・臨地実習においても重要な知識となります。		
授業計画	第1回（4月14日）総論：薬理学を学ぶにあたって、薬理学の基礎知識（薬力学）・小テスト（三村） 第2回（4月21日）総論：薬理学の基礎知識（薬物動態学）・小テスト（三村） 第3回（4月28日）総論：薬理学の基礎知識（臨床薬理学、法規、臨床試験、医療安全）・小テスト（三村） 第4回（5月12日）各論：抗感染症薬・小テスト（内藤） 第5回（5月19日）各論：抗がん薬・小テスト（内藤） 第6回（5月26日）各論：免疫治療薬、抗アレルギー薬・抗炎症薬・小テスト（内藤） 第7回（6月2日）各論：末梢神経系作用薬・小テスト（小澤） 第8回（6月9日）各論：中枢神経系作用薬・小テスト（小澤） 第9回（6月16日）各論：中枢神経系作用薬・小テスト（小澤） 第10回（6月23日）各論：循環器系作用薬・小テスト（平井） 第11回（6月30日）各論：循環器系作用薬・小テスト（平井） 第12回（7月7日）各論：呼吸器・消化器・生殖器系作用薬・小テスト（平井） 第13回（7月14日）各論：物質代謝作用薬、皮膚科用薬・眼科用薬・小テスト（朝倉） 第14回（7月21日）各論：救急薬、消毒薬、輸液製剤・輸血剤・小テスト（朝倉） 第15回（7月28日）各論：漢方薬・小テスト（間宮） 第16回（8月4日）期末試験、授業アンケートの実施		
授業の進め方	授業は教科書を中心として進めますが、必要に応じて資料を配布します。 講義終了後に復習のために小テストを実施します。 臨床で使用する薬を理解する意味で参考書を重要な資料とします。		
テキスト、教材、参考書	教科書：系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進〔3〕第15版「薬理学」吉岡充弘、泉 剛、井関 健、横式尚司、菅原 満 著、医学書院 参考書：①今日の治療薬 浦部晶夫、島田和幸、川合眞一 編集、南江堂 ②PT・OTのための治療薬ガイドブック 本間光信 監修、高橋仁美 編集、メジカルビュー社		
成績評価の方法	小テスト、期末試験により成績を評価します。総得点を100点満点とし、配分比率を小テスト20%、期末試験80%とし、総得点の60%以上を合格とします。 期末試験では、薬の生体内での動きや作用発現機序、薬物療法に際しての薬物選択の意義に加え、医療安全、医薬品開発、薬事法規、チーム医療における薬剤師と看護師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士との関わりなどについての理解度を確認します。		

成績評価の基準	期末試験による成績評価の判定基準は、下記の通りとします。 90－100点：秀 80－89点：優 70－79点：良 60－69点：可 これらの採点の基準は、教科書の各章末のゼミナールや投与時の看護のポイント、薬物療法中のリハビリテーション上の注意点などで示された内容と同レベルの問題が解ければ「合格水準にある（可）」、応用問題が解ければ「やや上にある（良）」、やや難しい応用問題が解ければ「かなり上にある（優）」、難しい応用問題が解ければ「卓越している（秀）」と判定します。
事前事後学習の内容	【事前学習について】教科書の該当範囲を予習して、授業に臨んでください。該当範囲は授業計画を参照してください。 【事後学習について】各章末のゼミナールを用いて復習してください。毎回の授業終了後、eALPS上に小テストを出題しますので、スケジュールを確認の上、受験してください。 本授業の単位修得には90時間の学習が必要であるため、以下のような学習時間を必要とします。 授業時間30時間（2時間×15回）＋ 自己学習時間60時間（4時間×15回）＝ 90時間
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	薬は薬物治療にきわめて重要なものです。正しく理解し正しく使うために、基本的な内容を理解しましょう。 授業に関して分からないことがあれば、下記担当者にメール（(at)は@に置き換える）でお知らせください。 （内藤 隆文）naitou(at)shinshu-u.ac.jp （間宮 敬子）keiko(at)shinshu-u.ac.jp （平井 啓太）hiraik(at)shinshu-u.ac.jp （小澤 秀介）s_ozawa_27(at)shinshu-u.ac.jp （朝倉 充俊）asakura(at)shinshu-u.ac.jp （三村 享）mimuaki(at)shinshu-u.ac.jp